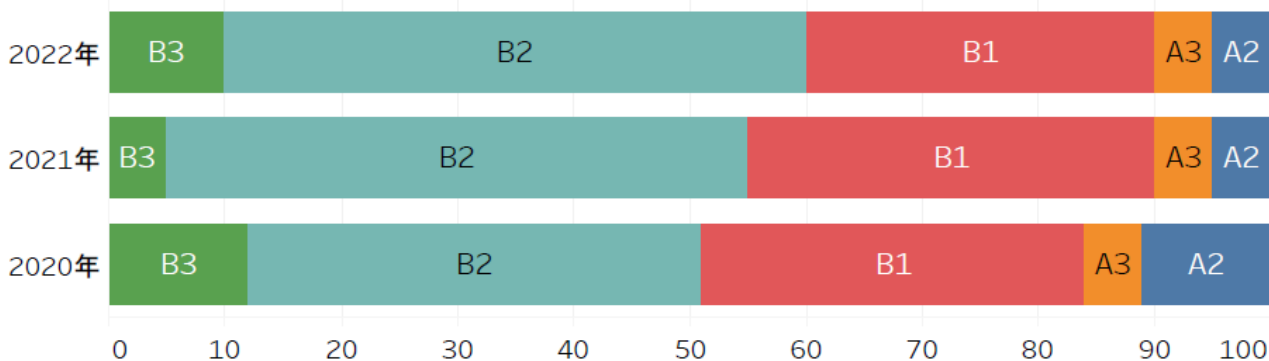


2022年 浦和明の星女子 算数（第1回）

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。2021年と比べ、B3の出題割合が増えています。2021年とほぼ同等の問題難度と考えられます。論理的思考力・応用力が求められる思考コードBの問題が中心となります。



例年同様、大問1が計算・一行題、大問2以降が大設問の構成でした。大問1は、確実に得点しておきたい問題が並びます。ここで落としてしまうと、後半での挽回が厳しくなります。(6)ルーローの三角形は、過去の千葉県立(2019年)や駒場東邦(2010年)などでも出題が見られました。作図に手間はかからないので得点しておきたい問題です。(7)①は、長方形ABHGを対角線GBで半分にした形に注目します。②は、辺の比3:4を利用して長方形ABCD縦と横の比を求めます。比が2種類登場し、整理に時間がかかるため、差がついたと思われます。

大問2から難度が一気に上がります。大問2は、浦和明の星で頻出の旅人算です。(1)は確実に得点しておきたい問題です。(2)は、2人の移動の様子をダイヤグラムに置きかえることがポイントです。兄が妹に出会ってから公園に戻ったときの時間に着目します。大問3は、状況がとらえにくいいため、差がついたと思われます。水面の高さの差となる6cm、9cmに着目します。先に(2)が求められるので、(1)も答えがわかります。

大問4は、3種類の図形が登場しますが、2つの図形の移動と同じ考え方です。(1)は確実に得点しておきたい問題です。(2)、(3)はPとQの先頭部分が出合う8秒後に着目して、3つの図形の重なりを求めていきます。重なりが三重となるため、差がついたと思われます。大問5は、浦和明の星でよく見る「ゲーム」の問題です。(1)はルールの確認・運用なので、確実に得点しておきたい問題です。(2)もルール通りにコマの移動を調べれば解答することができます。(3)は、(1)と(2)からわかるコマの動きの規則を一般化して活用することでもれや重複なく求めることができます。が、試験時間の中に完答するのは難しかったと思われます。

仮に、各5点とした場合、大問1(7)②、大問2(2)、大問3(3)、大問4(2)(3)、大問5(3)の6問を落としたとしても70点と7割に達することができると考えられます。限られた時間を有効に使うためにも、問題の取捨選択が大切です。